

なかとんべつ 町議会だより

Volume

190

平成27年7月24日発行



第2回定例会議決結果、第3回臨時会結果 ……	3
私たちの一般質問 ……	4
報告事項 ……	9
議決内容 ……	10
いきいきふるさと常任委員会、議員だより ……	11
管内議員研修会報告・議会の動き・編集後記 ……	12

発行 中頓別町議会
編集 議会広報編集特別委員会
お問い合わせ
〒098-5595 北海道枝幸郡中頓別町字中頓別172番地6
tel (01634) 6-2244 (直通) / fax 6-1155



第2回 定例会

平成27年第2回定例会が、6月24日から3日間の会期で開催されました。冒頭の行政報告で小林町長から下記の4点について報告がありました。

1. 行方不明者捜索について

6月11日午後3時前に、枝幸警察署から、知駒岳山頂付近でタケノコ採りをしていた幌延町民の80歳男性が行方不明になったとの一報が入り、急きょ捜索隊を編成し現地に派遣した。捜索の結果、午後4時30分、本町職員の一人が不明者を発見したが、残念ながら死亡が確認された。

2. 教育長の辞職について

教育委員である柴田弘氏から、5月20日付けで一身上の都合により、6月30日をもって職を辞したいとの願いが提出された。慰留に努めたが、意志が固いことから6月16日、辞職に同意した。

3. 天北線代替輸送連絡調整協議会の取組みについて

3月17日、最終の公共交通会議が開催され、「天北地域生活交通ネットワーク維持計画」が策定された。

そのうち、「中頓別・音威子府」の区間は、路線バスに代わり市町村運営有償運送である乗合タクシーで対応することとしており、基本的にJR特急に接続するように3往復、予約制となっている。今後、市町村単位で住民説明会を開催し、十分な説明と周知徹底を図り、関連する事業予算を確保することになる。

4. 宝島テクノサービス(株)中頓別工場存続について

本件に関しては、中頓別町農業協同組合が事業を引き継いでいただける方向で話を進めていたが、6月15日開催された理事会で事業を引き継ぐことを断念する旨決定し、同日、組合長より正式に報告を受けた。町としては町民の利便性や雇用の場の確保、人口減少対策として、あらためて事業引き受け者を募るべきとの考えから、中頓別町商工会に対し事情説明を行い、事業を引き継いでいただける事業者を募っていただくことを依頼した。

一般質問では、通告順に7議員が質問を行いました。

報告では、平成26年度予算を平成27年度に繰り越して使う「繰越明許費繰越計算書」のほか、町が資本金を出資している「中頓別観光開発株式会社」、「有限会社中頓別振興公社」の平成26年度経営状況が報告されました。

町長から提案された、柴田弘教育長の辞任に伴う後任教育長として、田邊彰宏氏を任命することに同意するとともに、補正予算を含む議案10件、議員により発議された「安全・安心の医療・介護の実現、医療・介護従事者の大幅増員と処遇改善を求める意見書」、「介護報酬の再改定を求める意見書」をいずれも原案どおり可決して、会期を1日残して25日に閉会しました。

第2回定例会で 決まりました



議決結果の一覧

○ 議案第25号 不妊治療費助成事業に関する条例
○ 議案第26号 子ども医療費助成に関する条例（一部改正）

改正）

○ 議案第27号 いきいきふるさと推進条例（一部改正）

○ 議案第28号 過疎地域自立促進市町村計画の変更

○ 議案第29号 一般会計補正予算

○ 議案第30号 国民健康保険事業特別会計補正予算

○ 議案第31号 国民健康保険病院事業会計補正予算

○ 議案第32号 水道事業特別会計補正予算

○ 議案第33号 商工事業継承者支援条例

○ 同意第3号 教育委員会教育長の任命同意

○ 発議第4号 安全・安心の医療・介護の実現、医療

・介護従事者の大幅増員と処遇改善を

求める意見書

○ 発議第5号 介護報酬の再改定を求める意見書

※以下は報告案件

報告第1号 平成26年度一般会計繰越明許費繰越計算書の報告

報告第2号 中頓別観光開発株式会社経営状況報告

報告第3号 有限会社中頓別振興公社の経営状況報告

第3回臨時会結果

（5月25日）

第3回臨時会において、次の条例が改正されました。

○ 議案第24号 介護保険条例の一部を改正する条例

介護保険法施行令の改正により、平成27年度から平成29年度までの第一段階の低所得高齢者の保険料軽減を図るため、年額2万7千円を2万4千300円に減額するものです。

議会を傍聴しましょう

議会は、町民の暮らしに直結する税や福祉などの身近な問題を議論する大切な場です。議会では、議会だよりで情報の提供に努めていますが、町政の動きを定例会や各種委員会を実際に傍聴し、自らの目と耳で知ることが大切です。

次の定例会は、9月に招集されます。日程は、議会だより臨時号などでお知らせします。

ホームページで議事録などを公開しています

町のホームページ（<http://www.town.nakatombetsu.hokkaido.jp>）で議会だより、定例会の議事録などを公開しています。町ホームページから（議会）へ進みご覧ください。

議会日程や傍聴の手続き、請願・陳情などのお問合せは、Tel6-2244（議会事務局）へ。

ここが聞きたい、知りたい 私たちの一般質問

細谷久雄 議員



質問

●町政執行方針について

町政執行方針で町政に臨む基本姿勢を述べられているが、町が抱える課題は引き続き山積している。

新たな中頓別町を創造するために、政策の優先度など平成27年度の事業展開にどのように取り組むのか。

答 弁 ○小林町長

第7期中頓別町総合計画を基本に今年度はまず、人口減少対策を含む「中頓別町版地方総合戦略」の策定を最重点に取り組みたいと考えており、合わせて中長期的な行財政運営に関する新たな計画づくりにも取り組んでいく。

その中で、平成27年度はすでに準備されてきた事業を中心に、生活基盤整備・地域経済再生・住民のいのちと健康を守るための政策に取り組んでまいります。

また、新たな教育委員会制度がスタートすることから、教育関係者と積極的に議論を重ねて大綱の策定に取り組むほか、子ども・子育て支援、教育・保育の充実に向けて取り組んでいきたい。

質問

●後継者対策と人口減少問題について

町の振興策として若者の定住環境づくりは最も重要なことであり、農業・商業後継者の育成と定着は大きな課題である。雇用の場がなければ50代・60代の定着も難しくなってくる。

人口減少を食い止めるために、雇用創出を考える必要があると思うが。

答 弁 ○小林町長

町としては、官民間問わずに現状の雇用の場を維持することを基本とし、新たな支援策の創設を含めた対策を講じていきたい。その上で、公的な対応としては、移住支援を強化し「地域おこし協力隊員」の新たな分野での活用や「集落支援員」の全町的な活用などを図ってまいります。

まずは、今できることを確実に行っていくことが将来的な人口減少対策につながるものと考えており、新たな雇用創出に向けては、地域資源の活用を基本に据えて、第一次産業である農林業へのテコ入れを図って関連する雇用機会の拡大につなげ、農林産品を活かした商品開発などを進めていきたい。

長谷川克弘 議員



質問

●安全な町民生活を支える体制、対策の確立について

町道各路線の路外逸脱を防ぐための交通安全施設（防護柵、転落防止柵）の不足と老朽化による機能低下が著しい危険個所の調査、修理・修繕など、維持管理は適切になされているか。

また、老朽化した橋梁の補修工事が今年度から計画されているが、敏音知地区の藤山橋のように、増水時橋桁下部が水面と接触するようでは架け替えが必要ではないか。

答 弁 ○小林町長

交通安全施設を含めた町道の点検、維持管理については、毎年融雪後の町内パトロール等で、危険箇所や修繕を要する箇所を調査し、安全に通行できるよう補修、修繕等を行っている。

また、老朽化している橋梁については、今

年度から橋梁長寿命化修繕計画に基づき計画的に補修等を行い、長寿命化と安全性を高めることとしている。藤山橋についても平成29年度に補修・補強工事を計画している。

今の町財政状況から架け替えは難しいが、将来的には架け替えも含めていずれかの時点で考えたい。

質問

●町民体育館の整備について

近年の町民体育館の利用者数と使用料収入の推移を伺う。

現在の町民体育館では照明も暗く、冬期間の暖房設備も館内を暖めるほどの設備ではない。町民が運動することのできる限られた施設として整備が必要ではないか。

答 弁 ○柴田教育長

過去3年間の実績は、平成24年度利用者数、3千403人、使用料収入27万6千円、平成25年度、利用者数4千48人、使用料収入23万5千円、平成26年度、利用者数は3千754人、使用料収入28万3千円である。

町民体育館は昭和41年に建設され、築49年が経過しており全体的に老朽化が著しい現状だが、現時点で部分的な改修等をする考えはない。

公的な体育館としての必要性は認識

しているが、その整備には多額の費用を要するため、老朽化してきている教育関連施設の今後の整備計画と併せ、その整備方法等を検討していく。

佐藤奈緒議員



質問

●早急なパートナー対策委員会設置を

現在、町と農協が行っているパートナー対策は、酪農家しか参加できない。女性や団体に入っていない独自者など、だれでも参加できる対策委員会を立ち上げ、町全体でパートナー対策を進めることが人口減少に歯止めをかける政策の一つと考えるがどのようにお考えか。

また、新たな青年交流組織の立ち上げの時期と今年度の交流イベントの内

容について伺う。

答 弁 ○小林町長

町では、昨年から町全体でのパートナー対策を図るために、町内の青年で組織する「商工会青年部」「4HC」「イベント協会」の3団体を中心とした新たな青年交流組織「仮称 青年交流推進懇談会」を立上げるための意見交換や意識を高める講演会等を開催し、近々、設立準備会の開催を経て、組織化を図ることとしている。今年度は、町内外の青年達による交流イベントを開催する。

答 弁 ○遠藤まちづくり推進課長

7月に設立準備会を開催し、8月に新たな組織を立ち上げたい。3団体以外の団体や女性、組織化されていない町民の方にも幅広く参加を呼び掛けていく。

今年度の交流イベントは、組織設立後、若者が独自に発想する内容をイベントに活かして秋には実施したい。

東海林繁幸議員



質問

●副町長の配置について

行政・財政困難な過疎地の町ほど理事者の任務は多忙であるはず、早急に副町長を配置すべきである。

答 弁 ○小林町長

これまで副町長を置かないのは厳しい財政状況から脱却するための再建途上にあつたことによると理解しているが、条例を定めることもなく副町長を置かない状況が長く続くことは好ましくないと考えます。

今後に向けては、少し時間をかけ、そもそもの副町長の位置づけと役割、町としての今後の行財政運営のあり方及びその見通しを明らかにした上で、置くべきことを前提に議論を深めて、2年以内に結論を得ていかなければならないと考える。

質問

●特別職等の報酬見直しの必要性は

財政改革の過程で必要であった各種委員を含めた特別職等報酬の引き下げは、道内、管内町村と比較しても現状では大きな格差となり、人材登用にも影響があると考えられる。早急に見直しの検討をすべきと考えられるかがかか。

答 弁 ○小林町長

特別職等に関する報酬については、財政早期健全化団体に指定された時期を乗り越えていかなければならない中で削減され、今日に至っているものとして理解している。また、一般職の職員についても手当の一部が削減されたままとなっているほか、臨時職員等の賃金も改善が必要と認識している。

ただ、現時点の優先課題としては、将来的な財政状況及び今後の行財政運営の見直しを明確にすることが必要であり、それを踏まえて人口減少問題などの政策課題に厚く財源を確保していかなければならない。

報酬及び給与等の見直しについてはもう少し先の課題であり、見直す場合にも、常勤の一般職等の給与、賃金の改善と一体に行うべきものと考えている。慎重に検討に着手する時期を見極めたい。

西浦岩雄 議員



質問

●創造的な自治体改革の推進について

町政執行方針の中にある、限られた財源と職員のマンパワーが最大限生かされる効率的な行財政システムづくりとは、いままでのシステムとどこが違うのか。

答 弁 ○小林町長

いままでと変わらならない。行政は、地方自治法によって常に「最少の経費で最大の効果」を求められており、現在のグループ制は組織機構の簡素化によって行財政の効率化を図ることが目的であり、より機能を進化させるためには、職員の意識改革や専門的知識の習得、時代の変化に対応できる人材の育成が不可欠と考える。

さらに、創造的な自治体改革においては、IT技術を庁内に導入して専門

的に特化した職員、総合的に対応できる職員を養成して効率化を図っていく。

課を乗り越えて業務を推進することは、今現在人員に余裕はないので効率的な機構改革を提案して横のつながりを持つようなしくみづくりを図ってゆく。

質問

●中学校校舎の改築について

建築から47年を迎える中頓別中学校の校舎は耐震性のみならず老朽化が著しいと聞いている。改築して生徒が安心して学べる校舎を考えるべきではないか。

答 弁 ○柴田教育長

中学校校舎は建設後46年が経過し、全体的に老朽化が著しく、整備の緊急性が高い施設であり、整備にあたっては、国の「学校施設環境改善交付金」を活用するため、「耐力度調査」を実施する。耐力度調査とは、「構造耐力」、「保存度」、「外力条件」の3点を総合的に調査し、危険な建物である改築か、危険な建物でない長寿命化改修なのか判断するものである。

この調査結果により工実施の1年前に建築計画を文部科学省に提出する。調査期間は3か月程度である。

星川三喜男 議員



質問

●町政執行方針について

① 政策を進めるために「子ども・子育て支援」「福祉のまちづくり」「地域経済再生」の3つの柱をたてているが、具体的にかつわりやすくなるのか、どのように考えているのか。

② 「地方総合戦略」と「第7期総合計画」の連動を図るうえで、将来想定人口の見直しをするのか。

答 弁 ○小林町長

① 「子ども・子育て支援」については、結婚から妊娠、出産、子育てまで切れ目なく支援を行うことで、若い世代に精神的にも経済的にも安心して頂くとともに、夢を持って子育てができる地域づくりをめざしたいと考えている。

本定例会では、子ども医療費助成

して償還払いから現物給付への改正、不妊治療費助成を提案しているほか、これまで寄せられた意見をもとに、地域子ども・子育て支援事業の拡充のほか、教育委員会とも一体的に総合的な放課後対策などの検討に着手している。今後は、中長期的に一定の財源を確保したうえで、サービスの拡充、施設整備、子育て世帯の負担軽減策を総合的に検討していく。

「福祉のまちづくり」については、医師複数体制のもと地域医療を守ることを重点に、保健・医療・福祉・介護が連携して高齢者や障がい者などが安心して暮らしていける地域づくりをめざしたい。

社会福祉協議会や民生・児童委員などと連携しながら高齢者や障がい者の見守りや居場所づくり、権利擁護など地域福祉の充実を図るとともに、訪問看護やリハビリなど地域資源の拡充、健康増進・介護予防の充実などに着手していく。また、障がい者が地域で自立して生活できるように就労支援の充実にも積極的に取り組んでいく。

これとあわせて、大変困難となってきた医療従事者、福祉施設等で働く職員等の確保に向け、住環境の整備、資格取得に対する支援なども重要課題として取り組んでいく。

「地域経済再生」について、地域の事業者と経済団体が一体となって若い世代のために今ある雇用の場を守るとともに、新たな雇用創出にチャレンジしていかなければならないと考える。

② 地方版総合戦略は、総合計画と一体的に策定、管理すべきと考えており、人口の予測や目標値についても整合性を取って進めていきたい。

質問

● **行財政改革とグループ制について**

極限まで削減されたといっても過言ではない職員数の現状でグループ制はうまく機能しているのか。質の高い行政サービスと効率的な行財政運営の両立をどのようにお考えか。

答 弁 ○小林町長

地方自治法が求める「最少の経費で最大の効果」をめざす行政にとって、常に最小の人員費で質の高い行政サービスを果たすのが町民への責務であると考えます。

本町は平成16年10月からグループ制を導入し、組織機構を簡素化した上で、町長をトップとする迅速な意思決定で無駄のない行政運営に当たってきたと認識している。

今後とも安易に職員数を増やすこと

なく、限られた人員と財源の中で個々の能力開発に努めるとともに、研修等を通じてマンパワーを強化するなど、従来の行財政改革の精神を引き継いでまいりたい。

宮崎 泰宗 議員



質問

● **商工業の継承について**

中頓別町商工業継承者支援条例は事業継承を基本とした条例であるが、これまでに制定された複数の補助金条例を分かりやすくまとめて、全ての根拠となる、中小企業をはじめ地域経済の振興を図るための基本条例を設けてどうか。

新規起業、血縁内での事業継承、第三者継承に、初期投資全般への高額の

補助を考えてはいいかがか。若者が一步を踏み出せる補助制度が根本的に必要なのではないか。

補助以外にも地元経済を守るために地元消費の徹底をすべき。町行政内での消費、備品購入などの割合はどの程度か。

答 弁 ○小林町長

多数の従業員を抱える事業所の閉鎖が迫り、早急な対応となったため、基本条例の提案までは考えていなかった。抜本的に見直していきたい。

補助の内容は、経費への適用範囲や金額等、資金力のない若者が魅力を感じるよう再整備したい。

地元消費の割合に関しては今現在の状況を調査し、地元発注の徹底に努めたい。

質問

● **PR用映像DVDの作成は映像祭で**

地方創生の一環であるPR用映像DVDの作成事業として、町内外の誰もが参加できる映像祭を開催し、広い視点を集めるために、町に人を呼び、今までにない映像制作を試みてはいいかがか。

映像制作の事業者の選定を企業だけでなく、一般の個人や団体も対象とするのか伺う。

映像は移住定住事業や道の駅での放映等に活用することであるが、DVDの貸し出しなどは可能か。

答 弁 ○小林町長

当町には、町を映像で紹介できるものがなかった。今回作成し、移住・定住の募集時や道の駅ピンネシリ等で町PRに活用するものである。

映像祭については、町内外から映像づくりの担い手が増え、イベントに向けた機運が盛り上がるのであれば検討したい。

答 弁 ○遠藤まちづくり推進課長

DVD制作は、近日中に事業者を選定し、年度内に事業を完結する必要がある。業者の選定は、公共事業であるため、町への指名願を提出している企業の中から選ばれる。

完成したDVDの貸し出しは可能である。

質 問

●廃止されるバス路線への対応と現状について

実際に廃止される区間は町内のどのバス停からで、タクシー料金はいくらか。

タクシーとJR特急を結ぶようだが、予約が無くても1日3往復するのか。以前の情報提供で示された、予約した

全乗客を自宅まで送迎するという、今まで以上に便利な交通機関の実現は本当に可能か。

天北線代替輸送バスの負担は、中頓別町が大幅に軽減される可能性が高いということも示されたが、タクシーの負担が軽減分を上回るなら、3町村で今後もJR直結のバスだけは維持するべきではないか。

乗合タクシーの拠点が猿払村に置かれ、宗谷バスの本数やタクシーの運行などが猿払村や浜頓別町の財政力、経済力に優位に働き、中頓別への経済効果が望めないなら、音威子府村と同じように中頓別町も協議会から脱退してはいいかがか。

答 弁 ○小林町長

路線再編案では、中頓別ターミナルから小頓別秋田入口間が廃止され、新たに猿払村・浜頓別町と3町村共同で市町村運営有償運送「乗合タクシー」を導入し、1日3往復運行することで、JR特急に接続させ利便性の確保を図るものであるが、計画段階では、乗合タクシーの料金等については、具体的な検討は行われていない。

路線再編案は尊重すべきものであるが、現段階で示されている中頓別町の負担割合については、予想以上に多く、承服しがたいとも感じている。中頓別町にとって不利な状況が見直されない

としたら、今後は町単独での交通体制の確立も視野に入れつつ、住民の声を聞いていきたい。

答 弁 ○遠藤まちづくり推進課長

1件でも予約のある時間帯はタクシーを出し、予約が無ければ稼働しない。自宅までの送迎については現段階では明言できないが、従来のバス停の範囲を超えてタクシーを待つことはないという計画である。

質 問

●観光の振興について

本町では、鍾乳洞やピンネシリ地区が観光の中心という印象を強く感じるが、寿地区やメモリアルパーク、郷土資料館など、市街地周辺の活用についてはいかがお考えか。

観光振興計画策定の時期、策定委員会などを設けるのか。

ピンネシリ温泉の改革として、トイレの水洗化が必要ではないか。客室にはエアコンも設置されていないので、せめて全室に扇風機を置くべきではないか。

バスターミナル内トイレの窓にカーテンやブラインドの設置が無く、メモリアルパークで開催されるイベントに支障がある。すりガラスに替えるなど早急に対応すべきである。

答 弁 ○小林町長

当町における観光客数は、ここ数年ほぼ横ばいで管内的にもっとも低い状況となっている。また、ピンネシリ温泉の経営状況も年々きびしさを増してきており、改革が急務と認識している。こうした状況を踏まえ、町内にある全ての観光施設の有効な活用方法については、観光振興計画の策定に着手していく中で打ち出していきたい。

観光振興計画の策定については、町内で観光に関わる方々、有識者、町外の専門家などと委員会を立ち上げ、今年度から来年度にかけて練り上げていきたい。

バスターミナル内トイレの状況については早急に対応する。

答 弁 ○遠藤まちづくり推進課長

ピンネシリ温泉の扇風機について、設置できるよう対応していきたい。トイレの水洗化など、施設全体の設備強化については、費用対効果等を慎重に判断していきたい。

報 告 事 項



※ 町が出資する法人等は、毎年度、経営状況を議会に報告しなければなりません。

報告第3号 有限会社中頓別振興公社の経営状況報告

寿レクリエーション施設、一般廃棄物処理施設、鍾乳洞ふれあい公園、国保病院管理清掃、有害鳥獣処理施設業務等を営む同社全体の平成26年度決算状況は次の通りです。当期純利益が202,255円となりました。

●損益計算結果、貸借対照表

・収益合計	69,341,619円
・費用合計	69,001,272円
・営業利益	340,347円
・当期純利益	202,255円
・資産合計	21,209,087円
・負債合計	5,898,088円
・純資産合計	15,310,999円



※ 繰越明許費（くりこしめいきよひ）は、予算に計上されているが、年度内に支出が終わらないと見込まれるものについて、予算に定めることにより、翌年度に繰り越して支出することができるものです。

報告第1号 平成26年度一般会計繰越明許費繰越計算書の報告

平成26年度から27年度に次の事業予算が繰り越されました。

(単位：千円)

事業名	繰越金額
人口減少問題対策事業	1,215
移住定住促進事業	11,211
地域青年交流の場設定事業	1,075
特別養護老人ホーム施設整備助成事業	9,261
子育て世帯支援事業	1,997
林業専用道旭台1号線開設事業	15,000
商工業振興対策推進事業	4,000
公共土木施設災害復旧工事	31,890
合 計	75,649

※ 町が出資する法人等は、毎年度、経営状況を議会に報告しなければなりません。

報告第2号 中頓別観光開発株式会社の経営状況報告

ピンネシリ温泉の平成26年度決算は、前年度に比べ宿泊者で1,052人増加、入館者で795人減少。当期純利益が826,400円となり、4年ぶりに黒字決算となりました。

●損益計算結果、貸借対照表

・収益合計	35,797,058円
・費用合計	34,911,951円
・営業利益	885,107円
・当期純利益	826,400円
・資産合計	9,623,516円
・負債合計	5,092,501円
・純資産合計	4,531,015円

●利用状況

・宿泊者数	3,466人 (前年度 2,414人)
・入館者数	9,587人 (前年度 10,382人)
・会食利用件数	40件 (前年度 40件)
・利用人数	690人 (前年度 794人)

議 決 内 容

○議案第25号 不妊治療費助成事業に

関する条例

一般的に妊娠が可能な年齢にあるご夫婦が不妊治療により妊娠を希望される場合に、その治療にかかる医療費の一部を助成するものです。

当町では、北海道の助成対象である特定不妊治療だけでなく、その他医師が認めた一般不妊治療も助成の対象治療としています。

○議案第26号 子ども医療費助成に関する条例（一部改正）

現行、医療機関等が発行した領収書を添えて後日申請し支払いを受けている償還払いのしくみを、医療機関で支払いを要しない現物給付のしくみにするものです。

○議案第27号 いきいきふるさと推進

条例（一部改正）

新たに結婚支援事業を加え、婚姻後引き続き町内に居住する方に1組30万円を贈呈するものです。

○議案第28号 過疎地域自立促進市町村計画の変更

新規に実施する事業に、過疎対策事業債を充当するための計画変更です。

○議案第29号 一般会計補正予算

歳入歳出に2億7千214万円を追加。総額は2億2千646万円に。

改選期のため政策的な経費を含まない骨格予算であった当初予算に、選挙後、臨時事業費、政策的な経費を追加した肉付予算としたものです。

歳出の主なものは、総務費で、人事評価制度構築・導入支援委託料270万円、いきいきふるさと推進事業報償費として結婚祝金10組分300万円、総合戦略策定支援委託料500万円、社会保障・税番号制度に係るシステム整備委託料997万円などを計上。

民生費で、老朽化したデイサービスセンター送迎用マイクロバス購入費925万円、訪問介護サービスセンター利用者訪問用車両購入費124万円、福祉ハイヤー購入費278万円などを計上。

衛生費で、不妊治療助成事業に関する条例に基づき、特定不妊治療、一般不妊治療に対する助成90万円、一般廃棄物処理施設の施設・機械設備の整備・修繕費2千220万円、火葬場葬炉霊台車交換324万円などを計上。

農林水産業費で、森林管理道弥生線開設事業2千800万円、道営林道負

担金675万円などを計上。

商工費では、ピンネシリ温泉非常用照明交換工事費379万円などを計上。土木費で、町道あかね2号線整備事業5千860万円、橋梁修繕費2千295万円、ひまわり団地公営住宅ユニットバス化工事費610万円などを計上。

消防費で、吏員待機宿舍屋根修繕工事185万円、第2分団小型動力ポンプ購入費130万円を含む330万円を、南宗谷消防組合負担金として計上。

教育費では、小学校屋根塗装工事178万円、電気設備修繕工事286万円、児童生徒用パソコン購入費218万円、中学校校舎耐力度調査委託料360万円などを計上。

○議案第30号 国民健康保険事業特別会計補正予算

歳入歳出に197万円を追加。総額は3億450万円に。

歳出では、医療機械備品購入に伴う国庫補助金を国保病院への繰出金として197万円計上。

○議案第31号 国民健康保険病院事業会計補正予算

収益的収支の収入及び支出にそれぞれ59万円を追加。総額は5億2千750万円に。

歳出では、医師求人広告料59万円を計上。

資本的支出では、非常用発電機・受電盤更新に2千421万円、リハビリ施設設計委託料300万円、看護師住宅設計委託料350万円、医療機械備品購入費1千941万円を計上。

○議案第32号 水道事業特別会計補正予算

歳入歳出に344万円を追加。総額は8千180万円に。

歳出では、浄水場等修繕費に294万円、町道水道管移設工事費50万円を計上。

○議案第33号 商工業継承者支援条例

町内における事業継承を促すとともに、雇用の場を確保することにより、人口減少対策につなげるため、新たな助成制度として制定するものです。

○同意第3号 教育委員会教育長の任命同意

6月30日付で辞任する柴田弘教育長の後任教育長として、田邊彰宏氏の任命に全会一致で同意しました。

教育長 田邊 彰 宏 氏

任期 平成27年7月1日

（平成30年6月30日）

○発議第4号 安全・安心の医療・介護の実現、医療・介護従事者の大幅増員と処遇改善を求める意見書

医療・介護について、自治体・住民に負担をかけない対策を講じること、安心・安全な医療・介護を実現するため、医師・看護師・介護職員を大幅に増やすこと、国民の自己負担を軽減し、必要な増員と処遇改善が確保できる診療報酬・介護報酬に改善することを求めるものです。

○発議第5号 介護報酬の再改定を求める意見書

平成28年度予算において、介護経営と介護労働者が充実したサービスを提供できるように、介護報酬のマイナスイナス改定を見直すことを求めるものです。

いきいきふるさと常任委員会

議員全員で構成するいきいきふるさと常任委員会（東海林繁幸委員長）では、本会議で審査を付託された4議案について、審査の結果、次の意見を付して全会一致で原案可決し、議会で報告しました。

○議案第25号 不妊治療費助成事業に関する条例

○議案第33号 商工事業継承支援条例

○議案第29号 一般会計補正予算

○議案第31号 国民健康保険病院事業会計補正予算

【審査意見】

（議案第25号）

1 不妊治療助成対象者の夫婦の所得730万円以下の制限についての撤廃を検討すべきである。

（議案第31号）

2 看護師住宅建設の必要性については認められるが、一般住民の住宅不足解消も合わせて検討すべきである。

3 国保病院の医師2名体制の実現に向けては、子育て支援の面からも小児科も診察できる医師の確保に努力すべきである。

議員だより ～私の思い～

このコーナーは、それぞれの議員が町づくりや議会活動などについて思いを綴るものです。

『夢を持ち続けたい』

明治30年頃から砂金が採れるという話が広まり、ウソタン砂金地に続いてペーチャン砂金地も発見され、全国から一獲千金を夢見た砂金掘人が集まりました。東洋のクロナダイクといわれるようにゴールドラッシュに沸いたその当時、それまで人の住んでいない原生林であったが、砂金地だけは砂金採取人たちのテントや坪小屋などがひしめき合い、ペーチャンの最上流には7千人から8千人の集落があったと言われています。現在の人口が1千800人程度ですから想像もつきません。

先日、敏音知の山開きに登山をした方が、「中頓別は、鍾乳洞、利尻富士も見られる敏音知山、温泉や道の駅があり、そして砂金、ハチミツも採れる。中頓別っていい所だね。」と中頓別の魅力について話してくれました。

町にはいろいろな資源が沢山ありますが、十分に活かされていないのが現状です。

本年は町の将来に大きく影響を及ぼす「地方版総合戦略」を策定しなければなりません。活性化策の一つとして、地域の観光資源を一体的に管理し、主体的に取り組むことができ組織の必要性を強く感じます。

かつてのにぎわいに少しでも近づくことができるまちになる夢を持ち続けたいものです。

（綴人・村山義明）

議会の動き

4月

- 19日 中頓別町故郷会（東京都）
28日 中頓別町観光協会通常総会

5月

- 1日 全員協議会
8日 第2回臨時会
10日 中頓別町クリーン作戦
14日 中頓別町商工会通常総会
15日 議会広報編集特別委員会
17日 中頓別消防団春季消防演習
19日 宗谷町村議会議長会定期総会（稚内市）
21日 中頓別町育英会総会
新町長・議会議長と教育関係者との懇親会
22日 天北線代替輸送連絡調整協議会総会及び稚内音威子府間「命をつなぐ街道」整備促進期成会総会（浜頓別町）
24日 中頓別町自衛隊協会通常総会
25日 第3回臨時会
議会広報編集特別委員会
26日 南宗谷衛生施設組合議会（浜頓別町）
27日 中頓別観光開発株式会社定時株主総会
31日 名寄駐屯地創立62周年記念行事（名寄市）

6月

- 4日 宗谷管内町村議会議員研修会（枝幸町）
5日 全員協議会
7日 鍾乳洞祭り
9日 中頓別町戦没者慰霊祭
14日 中頓別小学校運動会
17日 北海道町村議会議長会定期総会（札幌市）
21日 ビンネシリ山開き
24日～25日 第2回定例会
議会運営委員会
いきいきふるさと常任委員会付託審査
いきいきふるさと常任委員会所管事務調査
27日 こども館運動会
旭台夏祭り

7月

- 2日 南宗谷消防組合議会（枝幸町）
7日 北海道町村議会議員研修会（札幌市）
10日 議会広報編集特別委員会
11日 長寿園夏祭り
15日 議会広報編集特別委員会

宗谷管内町村議会議員研修会報告

平成27年度宗谷管内町村議会議員研修会が6月4日、枝幸町中央コミュニティセンターで開催され、7名の議員が参加しました。北海道町村議会議長会事務局長村川寛海氏の「町村議会の現状と課題」と題した講演を聴講しました。

今回の統一地方選挙では、無投票が多く、浦幌町が欠員1のままで選挙が終わっている。

道内の議員報酬の平均は17万円である。活動費もなく、手取りは更に少ないため、議員のなりてがなく定数割れになってしまう。無投票が続くと議員定数削減の方向に動くが、そうではなく、議員報酬を上げる方向にすべきではないか。

一般質問が活発に行われることは、議会の活性化の一番に挙げられるが、ただ一般質問を行えばいいというものではない。独演会ではないので、自分の考えを述べればよいというものでもない。また、お願いして質問を終わるなどの要望、陳情は質問ではない。誹謗、中傷、悪口ではなく、質問に値することを行っていただきたい。

質疑・討論について、会議規則では「本会議における質疑では自己の意見を述べることはできない」となっているが、質疑の段階で意見を言ってしまうと、討論の時には言うことはないという状況になっている。質疑に値することをしていただき、反対討論、賛成討論をしっかりとっていただきたい。議会は議論する場所であり、意見発表の場ではないなど、貴重な講演を聞くことが出来ました。

講演終了後、有線テレビ放送のスタジオ見学のあと、うたのぼりグリーンパークで管内他町村議員との交流会に参加しました。情報交換もでき、大変有意義な時間を過ごすことが出来ました。

（報告者：細谷久雄）

編集後記

私にとっては議会で行われることすべてが未体験なことと、とても新鮮であり緊張の連続です。この度の定例会での一般質問、春の消防演習や戦没者慰霊祭などにも参加させていただき、見聞を広げることで私の人生にとって貴重な4年間になることを実感しています。

地方創生が叫ばれている今、地方版総合戦略の策定で満足することなく、確実な起爆剤としてその運用が求められております。人口減少を食い止められる最後のチャンスに知恵と労力を惜しみなく注ぐべきと考えます。

わが町が抱える問題は山積していましたが、いざ立場が変わり議員という立場でこの町を見たときの課題の多さには驚きを隠せません。

少子高齢化、医療・介護、公共施設やライフラインの老朽化等、早急に対応しなければならぬことがたくさんあります。限られた予算を有効に活用することは、言うまでもなく、お金が使われた結果、町民が「よかった」と実感できなければ使い方を間違った、或いは優先順位が違うことになります。そうならないよう経験を積み重ねていきたいと思えます。

議会広報編集特別委員会（長）